

相次ぐ鳥インフル よぎる2年前の「エッグショック」 卵価高騰も

町田結子

毎日新聞 2025/1/11 15:00 (最終更新 1/11 23:06)



愛知県常滑市内の養鶏場で発生した鳥インフルエンザの防疫作業の様子＝愛知県提供

年末年始にかけ、全国各地で鳥インフルエンザが相次いで発生した。卵を産む鶏の飼育羽数が全国的に減る中、このまま感染拡大が続けば、鳥インフルの大流行で卵不足に陥った2年前の「エッグショック」の再来になりかねず、関係者には不安や危機感が広がっている。

【町田結子、加藤沙波】

愛知有数の卵産地で…

年明け早々の1月2日、愛知県常滑市の養鶏場で、県内で今季初となる鳥インフルエンザが確認された。

愛知県での鳥インフル確認は約2年ぶり。その後も近隣農場で発生が続き、11日までに計六つの市内養鶏場で感染が判明した。

いずれも、卵を産む「採卵鶏」の養鶏場だ。

愛知県によると、県内には採卵鶏の養鶏農家が全国トップの108戸あり、飼育羽数約634万6000羽は全国4位（いずれも2023年調べ）。

このうち常滑市は県内トップの産地として知られる。



「愛知県内では先月、予防的に鶏舎などの消毒をしたばかり。これ以上の広がりは何とか食い止めたい」。農畜産物の販売を担うJAあいち経済連の担当者は、危機感をあらわにする。

2022年12月に鳥インフルエンザの感染が確認された長崎県内の養鶏場で鶏の殺処分分の準備をする関係者。このシーズンは全国で大流行し、合計で約1700万羽の家きんが殺処分対象となった＝2022年12月22日午前、本社ヘリから

殺処分や防疫措置を終え、移動制限が解除されても、新たにヒナから育て、経営再開できるまで1年はかかる。県内のある業者は「必要以上に警戒してやっていくしかない」と言葉少なに語る。

まん延、拡大の可能性も

農林水産省によると、今季の養鶏場での初確認は、過去最も早い24年10月17日。発生ペースは一旦は落ち着いたものの、年末から年明けにかけて愛知のほか、茨城、岩手、鹿児島
の養鶏場で発生が相次いでいる。

省内では1月7日、対策会議が開かれ、江藤拓農相は「（関係者の）懸命な努力にもかかわらず発生しており、全国に拡散する可能性を秘めている」と述べ、「まん延、拡大すれば、卵や鶏肉の値段も上がるかもしれない」と警鐘を鳴らした。



愛知県内で今シーズン4、5例目となる鳥インフルエンザの感染確認を受けて開催された県の緊急対策会議。担当者が感染判明までの経緯や今後の対応などについて説明した＝名古屋市中区の県庁で2025年1月10日午前9時47分、加藤沙波撮影

11日（午後10時）現在の発生件数は14道県で27件。同省動物衛生課の担当者は「現時点での件数は過去最大だった22年シーズンより少ないが、年末年始に集中発生しているため、気を張ってやっていかないといけない」と警戒する。

殺処分406万羽、「品薄」懸念の声

法律に基づき、感染が確認された養鶏場では鶏は殺処分される。今季は現時点で約406万羽が対象となっており、その大半が採卵鶏だ。

「鳥インフルの影響で相場が急上昇し、品薄になってしまうのでは……」。名古屋市緑区のスーパー「ウオダイプラス」で卵を担当する中尾宗剛さん（37）の頭をよぎるのは、感染が大流行した22年シーズン後に訪れた「エッグショック」だ。

全国各地の卵相場

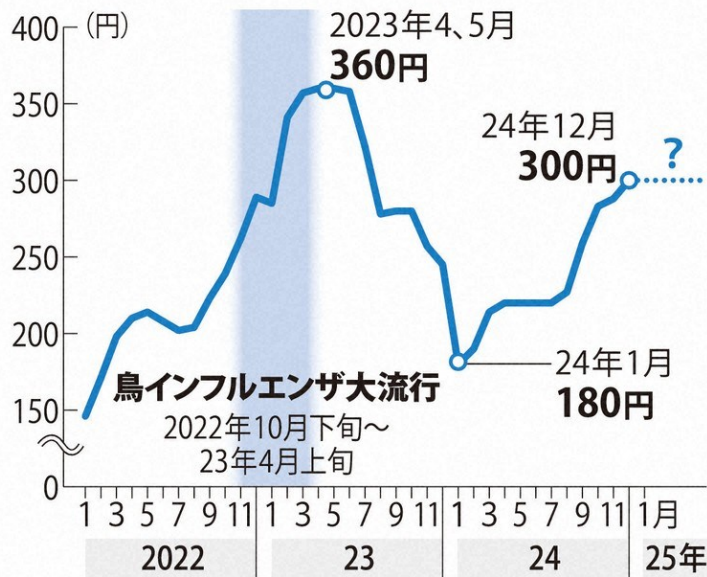
	東京	大阪	名古屋	福岡
2023年春（エッグショック）の最高値	350	340	360	345
24年の平均値	227	228	235	221
25年1月9日までの平均値	225	240	240	230

※「JA全農たまご」の資料から作成／Mサイズ1^キ当たり。単位は円

全国各地の卵相場

卵価格の推移

(名古屋地区、Mサイズ1キロ当たり)



※「JA全農たまご」の資料から作成

卵価格の推移

当時は供給量が減少し、全国で価格が高騰。卵の卸売価格の指標となる「JA全農たまご」の相場（Mサイズ、1キロあたり）は23年春、東京、大阪、名古屋、福岡の各地区で340～360円と、いずれも過去最高値となった。今年は9日までの平均値が各地区225～240円を付ける。

養鶏産業に詳しい元東京農大教授の信岡誠治さんは「今の値段が『底』で、これから徐々に上がってくる」とみる。背景にあるのは鶏の数の減少だという。

「多くの養鶏農家は赤字経営です。2年前の鳥インフルの大流行では1654万羽（採卵鶏）が殺処分されましたが、赤字続きで経営の体力がなくなり、羽数を回復できていません。今年に入って飼料代がさらに上がったことも影響します」



鳥インフルエンザの感染が各地で確認される中、卵の価格や流通に影響が出てくる可能性がある＝名古屋市緑区で2025年1月7日午後3時19分、加藤沙波撮影

鳥インフルエンザの拡大いかにかわからず、卵の値段は今後も上がるということなのだ。では、感染がさらに広がった場合はどうなるのか。信岡さんは「再びキロあたり350円という高騰のリスクもある」と指摘する。

同スーパーで買い物をしてきた近くに住む女性（74）は「卵は日常的に必要なもの。少々値上がりしても買い控えることはしたくない……」と話した。

「防げるかは『運』」

2年前の鳥インフル流行時に2事例（殺処分は約33万羽）だった愛知県では既に6事例（同約59万羽）が確認されている。



元東京農大教授の信岡誠治さん＝本人提供

今後の感染状況について、信岡さんは「広がらないよう祈るのみ」という。「主要な感染ルートはカラスなどの野鳥がしたフンです。それが乾燥してホコリとなって空気中に漂い、鶏舎に入る。全てシャットアウトすることなど不可能で、感染を防げるかどうかは運です」

防ぐ手立てはないのだろうか。信岡さんは「確たる防御手段がない今、有効なワクチンの開発に期待するしかありません」と話す。